

1

特集

令和5年度入学式を挙行

— 梶田隆章先生が特別講演で

新入生へエールをおくる—

 Vol. 36
 August
 2023


▲式辞を述べる坂井貴文学長



▲講演する梶田隆章先生

4月3日(月)、さいたまスーパーアリーナにて令和5年度埼玉大学入学式を挙行し、学部・大学院合わせて2,220名の新入生を埼玉大生として新たに迎えました。

入学式は二部構成で執り行われ、第一部では学長式辞をはじめとして学部長5名、研究科長2名より祝辞が述べられました。学長式辞では、坂井貴文学長が新入生の入学を祝した上で、「議論と批判的思考を心がけながら本学で学び、研究することによって、自身の思考を鍛え、個の確立を実現していけることを望みます。また、日々研鑽を積み、様々なことに臆することなくチャレンジしていきましょう。チャレンジすることは人生の新たな扉を開き、その経験は大きな自信となって、さらに成長し、前進していく原動力となります」とエールを送りました。

続く第二部では、本学卒業生・埼玉大学フェローで、2015年ノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章東京大学宇宙線研究所教授による特別講演が行われました。この講演では梶田先生ご自身の学生生活や研究についてのお話をいただき、「是非自分が本当にやりたいことを見つけ、そしてクリエイティブな人生を送ってほしいと思います」と新入生へ激励をいただきました。

式典には約1,500名の保護者の方々にもお越しいただき、新入生は多くの方々が見守る中、埼玉大生活のスタートを切りました。



▲多くの方々のご来場をいただきました

2
教育

埼玉りそな銀行寄附講義 「地域金融×地域創生入門」を開講しています

4月20日(木)、埼玉りそな銀行の寄附講義「地域金融×地域創生入門」第2回目の講義が行われ、同社の福岡聡代表取締役社長に「地域と金融」をテーマに、埼玉りそな銀行が地域金融機関として求められる役割や存在意義、地域課題の解決に向けた取り組みなどについてお話しいただきました。質疑応答の際には、新しい分野への進出や資産形成の方法などの質問に丁寧に答えいただき、最後は「新たな価値の創出に挑戦していきましょう」と学生にエールを送りました。

この寄附講義では、埼玉りそな銀行本社の方々や、各業界で埼玉との関わりが深い企業、さらには行政の要職にある方々に、それぞれの立場での地域との関わりや取り組み、将来ビジョンなどについてお話しいただけます。全学部の学生が履修できる教養・スキル・リテラシー科目として開講しています。



▲講師を務めた埼玉りそな銀行 福岡代表取締役社長

3
教育

株式会社さいたまアリーナと 包括連携協定を締結

3月17日(金)、本学と株式会社さいたまアリーナは包括的連携に関する協定を締結しました。本協定は埼玉大学周辺およびさいたま新都心地域を中心とした持続的発展と人材育成に貢献することを目的に締結したものです。協定締結直後となる令和5年度第1タームには「さいたま新都心の活性化に繋がる取組」を考える「課題解決型プログラム」が開講されました。最終講義となった6月9日(金)には提案発表会が行われ、「芝生広場の改善やパブリックビューイングの開催」「ランニングinさいたまスーパーアリーナ」等が提案されました。

学生からの発表後、株式会社さいたまアリーナの林直樹代表取締役社長から総評が行われ、特に働く世代への運動機会の提供について「賑わいを生み出すだけでなく、社会課題の解決を目指す提案である」と強い関心が寄せられました。



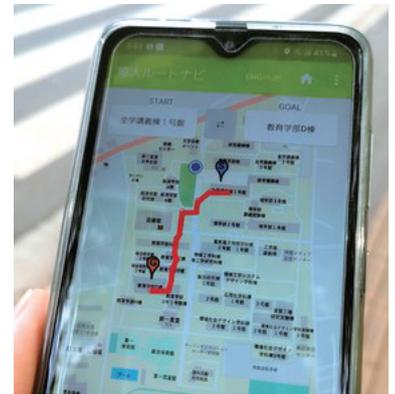
▲グループEの学生達

4
学生

あなたはもう迷わない —学生考案アプリが「どこだよ!! 教室!!」を解消

本学工学部機械工学・システムデザイン学科の学生が考案した学内地図アプリが、埼大生の間で話題になっています。このアプリは工学部専門科目である課題探索型セミナーの講義の一環で開発されたもので、新入生や留学生が抱える「教室の位置が分からない」「入口が分からない」といった課題の解決を目指し、機械工学・システムデザイン学科の学生7名が企画～制作にあたったものです。文字検索、地図タップ検索、学部・学科からの教室・建物の絞り込みといった複数の検索方法を実装し、様々なニーズに応えられる仕様としています。また、英語にも対応し、留学生にも使いやすいアプリとなっています。

アプリを利用している埼大生からは「現在はAndroidとWebアプリ版のみなので、iOS版を待っています」「むつめ祭のときに来場者に使ってもらえそう」等の声が上がっています。



▲アプリが目的地まで案内

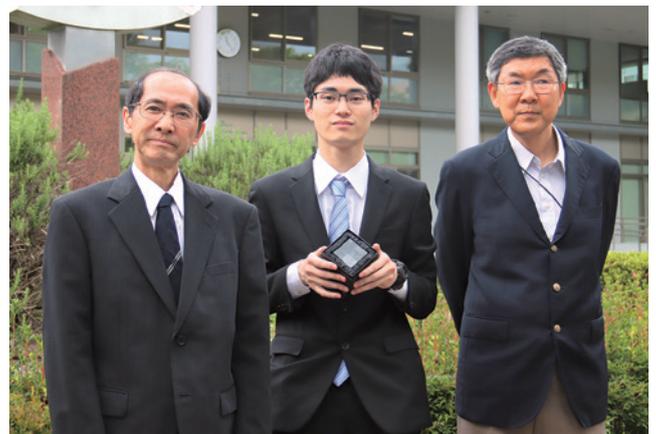
5
学生

令和4年度工学部長賞表彰式を 執り行いました

6月14日(水)、令和4年度埼玉大学工学部長賞の表彰式が行われました。この賞は、学士課程卒業後に大学院進学を予定している卒業生のうち、優秀な成績を取った学生を表彰するもので、令和4年度は機械工学・システムデザイン学科卒業で、本学大学院理工学研究科へ進学された横山智士さんが受賞しました。

表彰式では、重原工学部長から「約500名の中で最優秀の成績を修められ、大変素晴らしいです。この受賞を励みに今後も頑張ってください」と激励のメッセージが送られ、表彰盾と副賞が授与されました。

今回の受賞について横山さんは「このような賞をいただき大変光栄です。今まで関わってきた方々に感謝するとともに、今後一層研究に励みます」と感謝の気持ちと今後への抱負を述べました。



▲(左から) 重原孝臣工学部長、横山智士さん、荒居善雄機械工学・システムデザイン学科長

2023年度サマープログラムが始まりました！

例年6月、埼玉大学では短期語学・文化研修プログラム「サマープログラム」を実施しています。2015年のプログラム開始以来、毎年留学生を迎えていましたが、ここ数年間は新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催となっていました。

2023年度はサマープログラムを久しぶりに対面で実施することができ、本学協定校から4か国5名の学生を受け入れています。

6月12日(月)から4週間、日本語や日本文化、経済、国際開発などのサマープログラム集中講義科目が開講されます。サマープログラム生は埼玉大生やSTEPS生(交換留学生)とともに授業に参加します。講義開始に先立ち6月10日(土)にはオリエンテーションとサイエンスワークショップが開催され、翌日11日(日)には清水公園でバーベキューを実施しました。同年代の学生同士が楽しく交流し、参加した学生からは「楽しいだけでなく、英語に長時間触れることができよかった。濃密な2日間を過ごすことができた」といった感想が寄せられました。



▲バーベキューを楽しむ学生たち

令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 本学フェローを含む2名が受賞

4月7日(金)、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に授与される文部科学大臣表彰に、埼玉大学フェローである椎橋章夫氏と大学院理工学研究科のKOSKIVIRTA JeanStefan Harry Antero准教授が選ばれました。

椎橋氏は、「科学技術賞(開発部門)」において、我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し、実際に活用されている画期的な研究開発若しくは発明を行った者として、「ビッグデータにつながる鉄道ICカード乗車券システムの開発」の業績で受賞しました。

KOSKIVIRTA JeanStefan Harry Antero准教授は、萌芽的な研究、独自の視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の研究者を対象とした「若手科学者賞」に、「法p保型形式の重さとコホモロジー消滅の研究」で受賞しました。



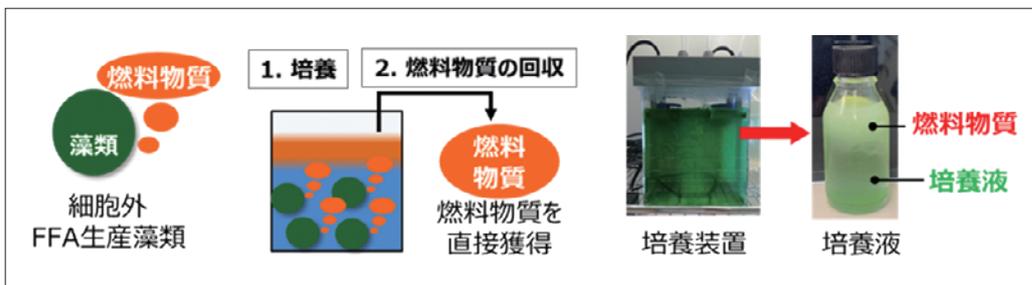
▲表彰状を手にするKOSKIVIRTA准教授

世界初、燃料物質である”油“を細胞外に生産する微細藻類の作製に成功 【大学院理工学研究科 西山佳孝教授 共同研究】

NEDOの「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」プロジェクトで大成建設(株)、埼玉大学、中部大学、かずさDNA研究所は、外来遺伝子を導入することなく、燃料物質である”油“を細胞外に生産する微細藻類の作製に世界で初めて成功しました。微細藻類の一種であるシアノバクテリア*Synechococcus elongatus* PCC 7942株に対して特定遺伝子の発現を抑制・強化することにより、細胞内の燃料物質である遊離脂肪酸(FFA: Free Fatty Acid)を効率的に細胞外に生産することを実現しました。

今回作製した藻類の特長として、外来遺伝子を含まない非組み換え生物であることに加え、FFA生産能力の強化と生産されたFFAを速やかに細胞外に放出させる機能の向上により、燃料物質であるFFAを容易に回収できることが挙げられます。また、培養した藻類を継続的に燃料生産に活用できるため、工業利用時の製造や運用に係るコストなどの軽減が期待できます。

今後、大成建設(株)は、今回作製した藻類のFFA生産能力の向上を図るとともに、藻類バイオ燃料製造システムの構築と実証試験を行い、藻類バイオ燃料の普及・拡大を推進することで、NEDOとともに脱炭素化社会の実現に貢献します。



▲開発した細胞外FFA生産藻類の燃料生産イメージ(左)と培養の様子(右)

9 研究 澤田和彦名誉教授がポーランド共和国文化功労勲章「グロリア・アルティス 金メダル」を受章

澤田和彦名誉教授が、ポーランド共和国の文化功労勲章「グロリア・アルティス 金メダル」を受章しました。グロリア・アルティスには金、銀、銅の3種類のメダルがあり、金メダルはポーランドで最高の文化功労勲章です。

受章理由は、澤田名誉教授の主著の一つ『プロニスワフ・ピウスツキ伝：〈アイヌ王〉と呼ばれたポーランド人』（成文社、2019年、2021年にポーランド語訳出版）など、長年のピウスツキ研究です。

授賞式はワルシャワ郊外のユゼフ・ピウスツキ博物館で4月26日(水)に行われ、ポーランド共和国副首相で文化国家遺産大臣のピョートル・グリンスキ氏より勲章が授与されました。

プロニスワフ・ピウスツキ（1866—1918）は、ポーランド共和国の建国の父ユゼフ・ピウスツキ（1867—1935）の兄であるとともに、サハリン、ウラジオストク、東京などで暮らし、アイヌ研究で大きな成果を残した民族学者です。



▲授与の様子



▲澤田和彦名誉教授

埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。現在、下図のとおり大学の機能強化、学生支援の充実を目的とするとご寄附を幅広く受け入れております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。

また、不要となった本やDVD等をお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただけるリサイクル募金「きしゃぼん」を導入しております。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉大みらい基金

【募集期間】2019年11月～2024年3月

■ 埼玉大学の機能強化を支援

教育・研究への支援

- ・教育プログラムの整備充実等
- ・国際的研究力の向上等

キャンパス環境整備への支援

- ・安全・安心・快適なキャンパス整備等

国際交流事業への支援

- ・海外留学の促進等
- ・外国人留学生受入促進等

社会連携事業への支援

- ・地域・社会との連携充実等
- ・企業との連携強化等

その他基金の目的達成に必要な事業

■ 学生への奨励事業の実施

特に優秀な学生への給付型奨励金制度の創設



詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金 検索

冠奨学金基金

寄附者の方の想いに沿った奨学金制度を創設

一定額以上（30万円以上）を寄附した寄附者（法人・個人）が、奨学金名称、奨学金の額及び対象学部等を設定いただけます。

特定基金

埼玉大学修学サポート基金

経済的理由により修学に困難がある学生等の支援

- ・授業料・入学金減免事業
- ・奨学金事業
- ・海外留学支援事業
- ・TA・RA事業

◆ 埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和5年 6月末の状況 **688,249,852円**

うちリサイクル募金「きしゃぼん」によるご寄附 **1,463,762円**

お問い合わせ先 埼玉大学基金室（総務部広報渉外課内） ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

